

# セルビアの旅： 土地・言葉・人

## 講演概要

ヨーロッパのバルカン半島は、歴史を通じて、さまざまな帝国の支配下におかれ、異なる文化、宗教、思想が混ざり合っている。中世から21世紀まで戦争が絶えず、「世界の火薬庫」とも呼ばれる土地である。

地域紛争から見た今日の世界において、文学や言語研究にどんな意義があるかを解き明かし、講師・山崎佳代子氏による代表作『黙然をりて』（2022年）『ドナウ、小さな水の旅』（2022年）『パンと野いちご』（2018年）などの朗読を通して、国家、言語、旅とはなにかを聴衆と共に考える。

**2023年6月23日（金）**

**13：30～15：30**

明治大学駿河台キャンパス  
リバティタワー3階1032教室

司会 郭南燕（文学部専任教授）

## 講師

# 山崎佳代子氏

ベオグラード大学文学部大学院教授

## 講師略歴

詩人、翻訳者、エッセイスト、文学研究家。1956年静岡市出身。北海道大学（露文）卒業後、ベオグラード大学で博士号取得。

日本語とセルビア語で、数々の詩集、随筆集、翻訳書を刊行。読売文学賞、紫式部文学賞、セルビア語現代女性詩文学賞、セルビア・ペン翻訳者賞、国際詩人モラヴァ賞を受賞。

バイリンガルな作家として、国際的に注目されている。